令和８年７月９日
全員協議会資料

武蔵野公会堂の当面の方向性の検討状況について

武蔵野公会堂改修等工事に関する入札手続を中止したことに伴い、武蔵野公会堂（以下「公会堂」という。）の当面の方向性の選択肢について、検討状況を報告します。

１　検討の経緯

公会堂については、「武蔵野市文化振興基本方針」や「武蔵野市文化施設の在り方検討委員会報告書」により文化施設としての在り方を明確にしたうえで、第２期武蔵野市公共施設等総合管理計画策定のための目標耐用年数検討プロジェクトや「武蔵野市文化施設整備計画」で課題や選択肢を整理し、吉祥寺駅南口の将来の面的整備を想定して築80年程度（令和25(2043)年頃）までの利用を目指すこととした。そのうえで、「武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議」を経て「武蔵野公会堂改修等基本計画」をまとめた。当該計画に基づき設計が進められたが、中東情勢の悪化に伴う影響を懸念し、令和８年４月 24 日に公会堂改修等工事に関する入札手続を中止した（５月 13 日総務委員会行政報告）。

その後、休館の長期化を防ぎ、公会堂の文化施設としての機能やパークエリアの魅力に及ぼす影響を最小限に抑えるため、今後の方向性の検討に着手した。

２　検討の前提

文化施設としての在り方に関するこれまでの議論、特に、「武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議」や「武蔵野公会堂改修等基本計画」で整理した「施設のコンセプト（目指すべき姿）」[1]を今後も尊重しながら検討する。

また、現在、第六期長期計画・第二次調整計画に基づき、公会堂を含むパークエリア全体の将来像の立案に向けて、きちぱ未来会議で市、市民、まちの関係者間での対話が進められている。今後、パークエリアでは、市が駅前広場など公共空間の整備を担う一方で、その周辺の民有地について

[1] (1)市民の芸術文化活動を支える創造・発信型の施設(2)だれもが安全で安心して利用できる施設(3)まちのつながりを持ち愛着を持たれる施設

は、民間事業者等の開発動向をとらえ、市と民間事業者等が協議を重ね、市が示す将来像（検討中）と整合を図り、市はその実現に向けて当該民間事業者を支援していくことを想定している。

そのため、今回の検討においても、現公会堂が担ってきたパークエリアにおける文化施設としての機能を将来へ継承する期間、具体的には、今後の将来像を踏まえたまちづくりの議論を経て公会堂の敷地の新たな利用が始まるまでの当面の期間、文化施設として活用していくことを前提として検討する。

3　当面の方向性の選択肢

公会堂の当面の方向性について、別紙のとおり一覧にした。大別して、既存施設の改修の選択肢と、参考として改築及び解体の選択肢を提示した（各選択肢の詳細は別紙個票のとおり）。既存施設の改修の選択肢は、現行設計の設計者の意見も踏まえて検討した。今後、本日の全員協議会での議論を参考に、これらの選択肢を比較検討することとする。

担当課　総合政策部企画調整課
総合政策部資産活用課
財務部施設課
市民部市民活動推進課
都市整備部都市再生課